



シリーズ(2)

文部省保健婦

糖尿病は、すい臓からのインスリンと呼ばれるホルモンの分泌が不足し、食物中の糖質を体のエネルギーとして利用処理することが出来なくなっています。

お米などの食物に含まれる糖質は、体に入つてから血液の中でブドウ糖になります。これが活動の原動力(エネルギー)となるためには、筋肉・脂肪など体の組織の中まで入らなければなりません。この糖質が組織の中に入るためには、インスリンが必要になってしまいます。

発病の原因

糖尿病の発病原因には、先天的な遺伝と後天的な誘因とが考えられます。

(1) 遺伝——生まれつきすい臓の働きが弱い人に、食べ過ぎ、運動不足、肥満などの後天的影響が加わると、すい臓

16ミリ映写機操作の認定も取れます
子ども会指導者専門講座
受講生を募集

赤十字運動にご協力を

赤十字事業のほとんどは、社員から年五百円以上を納めていただいている社費によって運営されています。今年は社員、社費の強調月間です。岩室村もこれに合わせ、今月二十五日までに社費を納入していただきために準備をしていきますので、ご協力をお願いします。

春の文化祭
公民館
5月26日(土) 9:00~21:00
27日(日) 9:00~17:00

ゴミの搬出

ごみは決められた日時に必ず収集場所に出してください

年齢に関係なく女性の場合、妊娠・出産：
感染症：これのみでは原因とはなりませんが、ウイルス感染などを契機として発病したり、糖尿病の人感染症によって悪化することがしばしばみられます。

これらの誘因をつくらないれば、発病を防ぐことができ

△対象：子ども会育成会関係者・PTA会員
△定員：三十五名 △期間：六月～七月の火曜日・金曜日の夜(十回開講予定) △会場：岩室村公民館

あれこれ △申込み：今月二十五日までに公民館(☎②四四四四)へ。

25年間の活躍に

厚生大臣特別表彰
阿部ヤノさんと中原節さん



昨年十二月の民生委員いっせい改選で退任された夏井の阿部ヤノさん(在職年数三十五年四ヶ月)と和納四区の中原節さん(同二十五年)のお二人が、このほど厚生大臣から特別表彰を受けました。これは民生委員、児童委員として二十五年以上もの長い間の活躍が認められたものです。最近は社会情勢、家族構成の変化で生活環境が複雑化して人の連帯意識が薄くなつたなかで、努力されてこられた阿部さん、中原さん、おめでとうございます。



花曇りの先月15日、間瀬7区の大日貴神社(センター白岩上方)の春祭りで「舟みこし」が地区内をねり歩きました。春祭りでみこしを出すのは初めてのこと…舟に飾りをつけて作ったみこしは「舟みこし」と呼ばれ、花棒をかつぐ顔にも笑いがあふれる。民謡おどりも仲間入りして、夕方まで間瀬はにぎわっていました。

大日貴神社の春祭り

善意をありがとうございます

△間瀬二区の木村要さん(前教育長)から公民館図書充実のため金二十万円のご寄付がありました。

△金池の高柳ヨコさんから「夫喜平さん」の冥福を祈られ金五万円のご寄付がありました。

危険物取扱者試験

▽問合せ・願書請求：消防岩室分署(☎②三三六〇)へ ▽願書受付：五月三十一日～六月六日 ▽願書提出：県総務部消

難易度：★★★★★
今日の納税：全期
納期限は五月三十一日です

下馬評

吉善の防火宣言

△等陸・海・空士：十八歳以上二十五歳までの男子＝常時受付。詳しいことは、役場総務課(☎②四一一・内線二〇三)か自衛隊加茂募集事務所(☎②五六五②五二二二)へ。

火災から守って!!
伸びる木伸びる村

今年もハイキングや山菜採りの行楽シーズンがやって来ました。この季節はまた林野火災の最も多い季節です。

ハイカーや入山者のたばこの投げ捨て、たき火などの不始末が原因です。どんな小さなたき火でも、バケツ一杯の水の用意は常識です。山のなかではたき火はしない、「たばこ」は必ず消して持ち帰るくらいの心構えがほしいものです。

森林は私たちにとって貴重な資源です。ハイキングや山菜採りなどで山にお出掛けのときは次のことを守って楽しい一日に――。

△たばこの吸いがらは必ず消す。

△車からたばこの吸いがらを投げ捨てない。

△たき火の場所を離れるときは完全に消えたことを確かめる。

△枯れ草などのある危険な所では、たき火はしない。

(注意)…森林などで、たき火をする場合は消防署に連絡をしてください。

日本ダービーともなれば、いつも競馬に興味を持つていな人でも「本命」とか「穴馬」といった「下馬評」に興味をひかれるようです。しかしこの「下馬評」の馬は、競馬とは関係がありません。城門や社寺の入り口に「下馬」「下乗」などと、それから先へは馬で乗り入れることを禁するむねを示した「下馬札」から出た言葉です。

「下馬」「下乗」などと、取りざたの意味になりました。徳川幕府初期の大老酒井忠清が「下馬将軍」の異名で呼ばれたのは、江戸城大手門の下馬先に屋敷があつたからです。また「下馬元り」は、下馬先に集まっている供の者たちのために、食べものを売りにきた商人のことで、酒やおでんを商つたのが「下馬屋」でした。大きな駐車場の近くにあるレストランで、ドライバーたちがしゃべり合つていれば、その話題がさしすめ現代の「下馬評」というところでしょう。